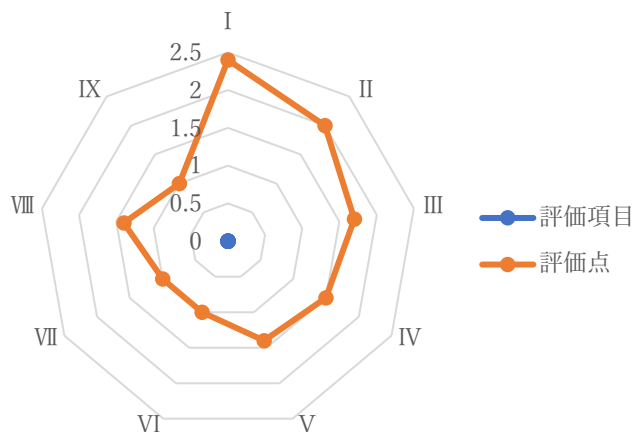


## 令和元年度 厚狭准看護学院 学校自己評価・自己点検

### 令和元年度の目標

円滑な運営を図るとともに、卒業生を准看護師資格試験に合格させ、准看護師として社会に送り出す使命を果たす。

	評価項目	評価点
I	教育理念・教育目的	2.4
II	教育目標	2.0
III	教育課程経営	1.7
IV	教授・学習・評価課程	1.5
V	経営・管理課程	1.4
VI	入学	1.0
VII	卒業・就業・進学	1.0
VIII	地域社会・国際交流	1.4
IX	研究	1.0



#### I. 教育理念・目的

教育理念・目的は、シラバスに明示し、入学前・入学後に説明している。日常の指導場面でそれぞれについて、具体的に触れることは少ない。今後は、指導場面において、効果的に活用する必要がある。カリキュラム改正に向けて、教育理念など妥当性を検討する必要がある。

#### II. 教育目標

本校のカリキュラムは、平成14年度のカリキュラム改正時に構築されたものである。カリキュラム構築されてから15年が経過しており、社会情勢や学生自体も変化している現状がある。2022年のカリキュラム改正を見据えて、定期的に見直す必要がある。

#### III. 教育課程経営

講義は、専任・非常勤を含めて60数名の講師によって成り立っている。ほとんどが外部講師ということから、教育理念・教育目的に対する一貫した活動がなかなかできない現状である。今後は、科目構成など学院の特色を考えた教育課程を構築していく必要がある。少人数の学院ということもあり、各学生の個性が生かせるような体系づくりを進めていく。

#### IV. 教授・学習・評価過程

講師の選任は、当医師会や関連施設の協力を得ながら行っている。各々の専門性が発揮できるよう適正な時間や準備などを考えて依頼している。

授業評価について、学生による評価は実施していない。今後は授業評価を取り入れながら、効果的な授業が行えるように調整していく。実習では、各実習指導者と連携を取りながら、個別指導を行っている。

## V. 経営・管理過程

施設・設備の老朽化への対応やトイレや更衣室など、教育環境の改善に向け、財源確保等の課題に取り組む必要がある。教員の確保は、現状問題はなく、それぞれの役割を受け持ち活動している。専任の実習調整者が配置され、各クラス担任との連携や実習施設とタイムリーに連絡調整を行っている。教員は職務分掌に沿って各役割を果たし、情報交換は随時行い、情報共有を常に行っている。

## VI. 入学

随時、オープンキャンパスを実施している。また社会人へのアピールの一環として、施設への訪問などを行っているほか、ホームページや広告も活用している。しかし、定員割れ、中途退学などの問題があり、対策が必要である。

## VII. 卒業・就業・進学

准看護師資格試験は、毎年 100%合格を維持している。卒業時の技術力や到達目標に関しては、学生評価は満足している状況ではあるが、実際には 7 割も出来ていない現状がある。今後は到達目標の評価を検討する必要がある。

卒業生の進学や就職に対しては、ほとんどが県内進学・就職であり問題はない。

## VIII. 地域社会・国際交流

ボランティア活動は数人の学生のみで、地域との連携は今後の課題である。ホームページによる学院の情報発信は今後も定期的に行っていく。

## IX. 研究

教員の授業時間が多く、その他学校行事や学生対応にも時間が取られている。そのため、研究意欲が削がれ、学会に参加するのみとなっている。現在、研修に行く時間や予算も取れない状況で、教員のスキルを上げるためにも何らかの対策を検討していきたい。